

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和7年度実施小笠原村学力調査の結果は、0.06ポイント上回る結果だった。一方、全国平均から1学年は△0.10ポイント、3学年は▲0.003と学年が上がるにつれて緩やかに下降する傾向がみられる。以上の点を踏まえて、以下の2点を1学年での解決すべき課題として挙げる。

- ・基本的学力を定着させるために粘り強く学習に取り組めるようになること。
- ・既習事項を適切に活用できるようになること。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

【課題の改善に向けた方策】

- ①毎週作文で原稿用紙200字程度の文章を書き、それらを読み合いコメントすることで、文章の書き方や表現を学び合わせる。さらに使用する漢字数を指定して、漢字の活用能力を高める。
- ②スキルタイムを使って、既習の学習内容を復習する時間を確保する。
- ③グループトークや朝のスピーチを取り入れる。

【令和6年度末に期待する児童（生徒）の姿】

- ・感じたり考えたりしたことを表現豊かに文章化できる児童

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・単元のはじめに既習事項や関連事項の復習の時間を設けている。
- ・知識を活用する際の良いモデルを示すとともに、悪いモデルの修正の仕方を示している。
- ・漢字、文法の小テストを週1回程度実施している。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①国語の勉強法が分からない生徒のために自主学習でどのような学習をすればよいか、各単元や授業の際に例示する。
- ②高校入試、高等学校での国語を見据えられるようにするために、各単元での学習事項の活用の仕方や、高校での知識との関連を示す。

＜検証方法＞

- ① 各学期の知識技能の達成率B以上の生徒の割合が8割を超える。（1学期：65%）
- ② 定期考査ごとに高校入試を想定した問題を出題し、その問題の正答率を見取る。

4. 検証結果（成果と課題） 【年度末に記入する】

＜成果＞

繰り返し取り組める問題を作成したことや、小テストを定期的実施したことで知識技能面の定着に一定の成果が見られた。

＜課題＞

知識技能の達成率B以上の生徒の割合が75%（2学期）であった。1学期から△10.0ポイントであったが、目標は達成できなかった。
学期末テストの前後に学習する生徒が多く、テスト後も継続している生徒は少ない。長期休業中に学習を継続できるような手立てをとる必要がある。

5. 令和8年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・学級全体として、基礎的な知識が定着してきた一方で、学力の二極化が進んでいる印象がある。努力を要する生徒に対して、授業内での支援はもちろん、家庭学習で利用できる課題を作成するなど、学校外の学習の支援をしていく必要があると考える。

6. 令和8年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿 【年度末に記入する】

自ら課題を発見し、解決しようとする姿。

〈授業改善推進プラン 令和7年度 第2学年 社会科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・村学力テストの結果から、全国値を上回っている(+3.5%)おり、全体的に検討している。
- ・カテゴリ別に見ると、基礎は51.2%と全国値を2.8%上回っており強みであるといえるが、活用は44.4%と全国を上回っている(+5%)ものの、基礎に比べて点が下がり、思考力・表現力が課題であると言える。
- ・分野別で見ると、歴史的分野は49.2%と全国値を大きく上回っており(+7.6%)、歴史的分野の理解は定着しているといえるが、地理的分野は49.0%と全国値を下回っている(-0.4%)。
- ・以上のことから、基礎的な知識・技能を活用して、思考・判断・表現する学習と地理的分野の学習が課題といえる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

[課題の改善に向けた方策]

- ①ICT 機器を使い、スライドを作成し授業の中で活用する。
- ②歴史領域において、歴史を動かしてきた人物になって、自分ならどう判断したか考えさせながら学習を進める。
- ③スキルタイムを使って、既習の学習内容を復習する時間を確保する。

[令和6年度次学年末に期待する児童生徒の姿]

・政治に興味をもち、法律や選挙など現在の時事について考えや意見がもてる児童

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ①ワークシートを作成し、自ら教科書、資料集、一人一台端末を活用して調べ学習ができるようにしている。
- ②ワークシートに考えをまとめる発問を設定したり、プレゼンテーションソフトを利用して発表し合ったり、知識を活用する活動を採り入れている。
- ③時事的な内容を授業内に関連付けて取り入れ、社会的事象への興味関心を喚起している。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①ワークシートに、資料や既存の学習内容を比較して相互の関連を問う発問の設定や、学習した知識技能を活用し本時の学習内容を自らの言葉でまとめる活動に取り組む。
- ②単元ごとに小テストを実施して、基礎的な知識・技能をより確実に身に付ける。

<検証方法>

- ①各学期の思考・判断・表現の観点の達成率が60%以上の生徒の割合が70%以上となるようにする。
(1学期：52%)
- ②各学期の思考・判断・表現の観点の達成率が70%以上の生徒の割合が80%以上となるようにする。
(1学期：52%)

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

- ・小単元ごとに、学習内容を自らの言葉でまとめる活動を通して、根拠をもとに考えをまとめられるようになってきている。
- ・単元ごとに小テストを実施し、基礎的な知識・技能の定着を図った。平均点が8割を超えるようになった。

<課題>

- ・意欲的に授業に取り組む姿勢はみられるものの、学習内容の定着に大きな差がみられた。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・社会的事象を多面的・多角的に考察し、根拠をもって自らの考えを表現する力の育成を目指し、資料の読み取りや調べ学習の充実を図るとともに、既習事項を活かして学習を深めていく。

- ・進路選択の一年であることを自覚させ、家庭学習を含めた学習習慣の定着を図るとともに、個に応じた学習方法の工夫ができるよう支援していく。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

基礎的な知識・技能を活用し、社会的事象を多面的・多角的かつ批判的に考察し、根拠を明確にして自らの考えを論理的に表現できる生徒

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 数学科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・多くの観点において全国値と同程度ではあるが、「知識・技能」の観点は全国値 57.0 のところ 55.3 とよりやや下回っている。昨年度の結果は全国値 69.6 のところ 76.0 だったため、下降傾向にある。

【解決すべき課題】

・今年度の「知識・技能」の観点の問題については、「数と式」の領域の特に「1次方程式」に関する問題において、正答率が低くなった。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・スキルタイム：既習学習の内容を復習する時間を確保する。
- ・ICT機器を効果的に授業の中で活用し、提示する。
- ・生活の中のものをテーマにしてデータを収集し、グラフを作成して分かることや傾向などを読み取る活動を実施する。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・問題演習量を増やす。(問題演習を繰り返した上で、同じ形式の問題で小テストを実施。)
- ・毎時間最初の5分間で計算のドリルに取り組み、基本的な計算の技能の定着を図る。
- ・授業内での机間指導を意識的に行い、数学に対して苦手意識のある生徒への支援を行う。
- ・小学校や中学1年での学習内容の復習を繰り返し行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①連立方程式の学習において、計算のみの演習やテストを複数回実施。

＜検証方法＞

①テストで正答率80%以上になる生徒が増加するかどうか。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

テストの結果は全体的な正答率は向上し人数も増加したが、最終的に80%以上となった生徒数は17人中8人とクラスの半数のみの微増に留まった。

＜課題＞

計算速度や正確さが安定していない生徒もいる。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・計算に集中した演習を通して、既習内容の習熟を図る必要がある。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

文字式の計算や方程式などの基本的な計算の技能が身につけている。

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村学力調査の結果から、令和7年度は全国平均(48.7)に対して(44.9)と下回った。令和6年度の全国平均(56.0)と比較すると、令和7年度の全国平均(48.7)と下がり、内容が複雑になったことへの対応の影響も考えられる。観点別に見ると、思考力・判断力・表現力が(48.2)に対して(50.7)と上回っているが、知識・技能が全国平均(49.2)に対して(39.4)と下回っており、知識・技能の定着に課題が見られる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組む態度を改善するために、自分の学習をふり返り、知識を整理することを目標にOPPシートの活用を行う。 ・知識・技能の定着させるために、重要語句の小テストを毎週行う。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元まとめテストの実施 ・つまずきやすい単元の復習プリントの配布 ・ふり返りシートのデジタル化 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①ふり返りシートの活用により、各単元で確認テストを主体的に取り組む。</p> <p>②観察・実験のレポートを共有することで、いつでもどこでも学びに取り組むことができる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①既習事項が定着しているか(平均正答率 60%以上を基準とする)どうかを単元末テストで検証する。</p> <p>②観察・実験への取り組み方が思考・判断・表現に結び付けられているか(平均正答率 60%以上)を定期考査で検証する。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①ふり返りシートの活用により、各単元で確認テストを主体的に取り組む。</p> <p>②観察・実験のレポートを共有することで、いつでもどこでも学びに取り組むことができる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①既習事項が定着しているか(平均正答率 60%以上を基準とする)どうかを単元末テストで検証する。</p> <p>②観察・実験への取り組み方が思考・判断・表現に結び付けられているか(平均正答率 60%以上)を定期考査で検証する。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①ふり返りシートの活用により、各単元で確認テストを主体的に取り組む。</p> <p>②観察・実験のレポートを共有することで、いつでもどこでも学びに取り組むことができる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①既習事項が定着しているか(平均正答率 60%以上を基準とする)どうかを単元末テストで検証する。</p> <p>②観察・実験への取り組み方が思考・判断・表現に結び付けられているか(平均正答率 60%以上)を定期考査で検証する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルワークシートの活用、ふり返りシートの活用によりいつでも自分の好きなタイミングで学び直しができる授業を実施でき、家庭学習の補填ができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識の保持に課題が見られるため、定期的に既習事項の確認を行い、短期記憶から長期記憶へ変換していく必要がある。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テスト前の学習習慣を確立することができた。ワークは1週間前に提出期限とした。一方で、学習内容の長期間の定着には課題が見られるため、くり返し確認していく必要があるようである。 		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p> <p>基礎的な知識・技能が定着しており、観察・実験の考察で科学的根拠をもとに思考の言語化ができる生徒。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

問5の設問については、第1学年より否定的評価は少なく、11.1%に留まった。昨年度とは立場が異なり、1年生に教える中で、自身の成長が実感できるという異学年交流ならではの良さが影響していると推察する。一方で、ICT機器の活用に関する設問は全体的に否定的な評価が多い。(例として問6は38.9%等) 問14の否定的評価は0%であるため、一人ひとりが学習者用端末を授業内で使う機会を意識的に設け、より学習の定着が実感できるような工夫を考えたい。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

【異学年交流の実施】2学年のみで練習を実施した後、1年生に教えることを目標とした、1・2年合同の授業を実施する(器楽分野)。教える事や面倒を見る事に進んで取り組み、意欲的に練習に臨んでいる様子が見られた。異学年交流の実施で、「自信をもてる」授業を目指す。

【ICT機器の導入】本年度5月より、音楽室にモニター画面を設置した。実際に教師がお手本をして見せることの他に、視覚的な情報を積極的に与え、演奏のイメージをもてるようにする。また、2学期以降、各パート、各楽器の“お手本動画”をクラスルームに投稿し、生徒の学習端末から1人1人が視覚と聴覚を使って目標となる演奏を把握できるようにする。生徒自身が表現に意欲をもち、「音で表現できる」授業を目指す。

【音楽室のUD化】授業の流れを板書したり、タイマーを用いたりして時間や活動を視覚化することで、見通しをもって授業に参加することができるようにする。また、教員の話に注意を向け、指示の聞き漏らしを減らすため、音楽室内の掲示物や設置物は最低限とする。教室の環境調整を通して、「集中が持続できる」授業を目指す。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・1つの題材内で振り返り欄を設け、できたことが実感できるようにしている。
- ・R5年度より、単学年での練習はパートや個人練習ではなく全体合奏に限定し、そこで習得したことを異学年合同練習で活かすサイクルを実践している。また、学期末に実技テストを行い、少しでもできることが増えたことを実感できるようにしている。(吹奏楽)

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①鑑賞では一人ひとりが自分のペースで音楽を聴くことができる教材の用意、歌唱・吹奏楽ではお手本動画の活用を行い、学習者用端末を使うことが目的とならないような、効果的な活用を心がける。
- ②全体合奏を全校吹奏楽指導の基本とし、一人ひとりができないことの原因を的確に指摘し、その解決策、解決策の挑戦によってできたことの価値付けを心がける。

<検証方法>

- ①年度末の授業アンケートにて、問14と同様の設問の肯定的評価が80%以上を超える。
- ②年度末の授業アンケートにて、問5と同様の設問の肯定的評価が90%以上を超える。また、音楽発表会後の振り返りにて、技能面の具体的な向上に関する記述を見とる。(自身の発音・発声の変化、音域の広がりや、合唱の全体像に対する変化を感じ取った記載)

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

- ・問14の設問の肯定的評価が94.7%であった。
- ・教員のICT機器利用については、肯定的評価が84.2%であった。
- ・問5について否定的評価が10.5%に留まった。

<課題>

学習者用端末の利用について、肯定的評価が増えなかった。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・学習者用端末を積極的に利用し、できたという実感の手助けとなるようにする。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

最上級生として、合唱・吹奏楽では、手本となる姿を見せてほしい。また、伝える立場になることも多くあるので、学んだことや身に付けたことを、積極的に言語化していけるとよい。

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 美術科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかったつもりになっているが、本当に理解ができていないことがある。 ・「できた」だけで「わかって」いないことがある。 ・生徒の授業評価アンケートにおいては、2名ほど前向きに授業に取り組めていない生徒がいる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取組みに対応したりする。 ・表しいものに合わせて材料や道具などの使い方のさらに工夫できるようにする。 ・自分で発想したり、考えたりするのが得意な児童が多いので、さらに自分の思いや気持ちを重ねて表現を深めることができるようにする。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「説明（わかる）→作業（できる）」では、生徒はあまり理解していない場合も多い。「説明（わかる）→作業（できる）→説明（わかる）」と同じ内容を繰り返すことで、自分のやった作業と説明がつながってくる人が多い。テスト前に補習を行い、同じ内容を確認することで、定着と紐付けを行う。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①机間指導を充実させ、個々のつまづきに気付き、丁寧に対応していくこと。特に、苦手意識をもっている生徒に対しては、丁寧に声掛けをし、どこでつまづいているのかを把握して取り除けるようにする。</p> <p>②振り返りを毎時間提出させ、それに対して個々にコメントを入れて返却し、授業で質問等がしにくい生徒に対するフォローをする。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①作品への現れ方を見る。 年度末の生徒授業アンケートにおいて、肯定的意見が増加しているかどうかを見る。</p> <p>②作品への現れ方を見る。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①机間指導を充実させ、個々のつまづきに気付き、丁寧に対応していくこと。特に、苦手意識をもっている生徒に対しては、丁寧に声掛けをし、どこでつまづいているのかを把握して取り除けるようにする。</p> <p>②振り返りを毎時間提出させ、それに対して個々にコメントを入れて返却し、授業で質問等がしにくい生徒に対するフォローをする。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①作品への現れ方を見る。 年度末の生徒授業アンケートにおいて、肯定的意見が増加しているかどうかを見る。</p> <p>②作品への現れ方を見る。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①机間指導を充実させ、個々のつまづきに気付き、丁寧に対応していくこと。特に、苦手意識をもっている生徒に対しては、丁寧に声掛けをし、どこでつまづいているのかを把握して取り除けるようにする。</p> <p>②振り返りを毎時間提出させ、それに対して個々にコメントを入れて返却し、授業で質問等がしにくい生徒に対するフォローをする。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①作品への現れ方を見る。 年度末の生徒授業アンケートにおいて、肯定的意見が増加しているかどうかを見る。</p> <p>②作品への現れ方を見る。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識をもっている生徒が、場面によっては意欲的に授業に取り組むことができるようになってきた。 ・作業だけでなく、定期考査にも意欲的に取り組む生徒が増えてきた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価を気にしているのか、自信がないのか、自己決定で作業を進めることができない生徒もいる。 	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容は面白いが、作業するのに時間がかかる生徒が多い。 ・意欲的に取り組むことのできる生徒が多いので、工夫する余地の多い創作活動になった方がよい。 ・鑑賞に意欲的に取り組むことのできない生徒もいるので、鑑賞の面白さを伝えていくことができるとよい。 		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p> <p>表現意図をもち、その実現のために工夫と努力を怠らない生徒。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 保健体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を受けて、科目に対する興味・関心が一層深まったと回答する割合を増やすこと (やや当てはまらない4名、やや当てはまる9名、かなり当てはまる4名) ・授業を受けて、学習内容が身についていると実感していると回答する割合を増やすこと (やや当てはまらない1名、やや当てはまる13名、かなり当てはまる3名) <p>【令和7年度1学期実施授業アンケートより17名回答】</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心と体との密接な関係にあることを自己の経験と学習したことを関連付ける。 ・心の健康を維持するために、日常的に個別面談を行い、個に応じた対処方法を説明していく。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各単元において、学習カードを使用し、見通しをもって授業に臨むこと。 ・学習者用端末を使用し、知識と技能向上の一助とすること。 ・仲間と振り返る機会を設け、本時の振り返りと次時への意識付けを図ること。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①学習カードやワークシートを用いて、見通しをもって授業に臨むこと。</p> <p>②学習カード等から生徒の躰きを把握し、個別や全体に共有する。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①2学期授業アンケートの上記項目の「やや当てはまらない」の回答の減少</p> <p>②2学期期末考査の得点と生徒自身の学習方法の振り返り</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>〈結果〉17名回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期の授業アンケートの科目に対する興味関心の回答は、やや当てはまらない3名、やや当てはまる12名、かなり当てはまる2名であった。また、学習内容が身に付いているとの回答は、やや当てはまらないが2名、ややあてはまるが12名、かなりあてはまるが3名であった。 <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目に対する興味関心の否定的回答は減少した。 ・肯定的な回答を維持して推移している。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・否定的な回答をなくすことができなかった。 	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的基本的な学習内容を定着し、それを生徒が実感できるようにすること。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの楽しさを仲間と味わう姿 	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 技術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートで授業の中で生徒の質問に的確にこたえるという項目が23%「あまり当てはまらない」という結果だったので、授業の中での生徒とのやり取りの中や、作業ができていない生徒に対してのサポートを意識して取り組むようにする。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和6年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識や理論について意欲的に学習する態度が低い <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間の授業の見通しをもてるように、授業の流れやポイントなどをあらかじめ提示しておく。 ・工具の種類によっては使い方の練習を行い、失敗をしないようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①作業の進みが遅れている生徒に対しての声掛けや、できていないところへのサポートを積極的に行っていく。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①作業が行程どおりに進めたかどうか。</p> <p>②作品の完成度が高いかどうか。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①作業の進みが遅れている生徒に対しての声掛けや、できていないところへのサポートを積極的に行っていく。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①作業が行程どおりに進めたかどうか。</p> <p>②作品の完成度が高いかどうか。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①作業の進みが遅れている生徒に対しての声掛けや、できていないところへのサポートを積極的に行っていく。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①作業が行程どおりに進めたかどうか。</p> <p>②作品の完成度が高いかどうか。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <p>作業が遅れている生徒には個別で対応したり、補習授業を行うことで、作業を途中であきらめることなく、作品を完成させることができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>意欲的に授業や課題、作業に取り組むことができる生徒を増やすこと。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各題材の評価項目と評価基準をもう一度見直し、生徒に周知して、見通しをもたせ授業と評価を行う。 		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p> <p>生徒自身がモノづくりを通して「自分是可以る」という自己肯定感が深まるような姿を目指す。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 技術・家庭 家庭分野〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・学習の定着と自立的な学習習慣の不足（問1：予習・復習をしていない：13人）
- ・提出物の遅れや未提出の存在（問3：期限内に出していない：8人）
- ・ICTや学習者用端末の活用に課題あり（問6：ICT活用に否定的：5人）
- ・「授業では分かったが、できたという実感を深める仕組み」が不足している（家庭学習やアウトプット機会が少ない）。問5（学習内容の定着実感）は肯定的な回答が多く（17人）、授業内での理解度は高いと考えられる。一方で、問1（家庭での予習・復習）で否定的な回答が13人、問3（提出物の期限内提出）で否定的な回答が8人と、授業外での継続的な学習やアウトプットが不十分な傾向が見られる。また、問6（学習者用端末の活用）で否定的な回答が5人あり、自己表現や記録の機会も限定的である可能性がある。

【令和7年度1学期実施授業アンケート 18名回答】

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・自分の生活から課題を見出し、その解決に向けて方法を考えることに苦手意識を感じたり、諦めてしまったりする児童が多いため、いくつかの例や見本を見せて考えのヒントにさせる。
- ・ミシン操作をする際には、見本の動画を学習者端末で見てから操作するようにする。また、2人ペアで練習させることとし、学習意欲を損なわないようにする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・授業冒頭に目標を明確に提示し、見通しを持って取り組める構成にする。
- ・教材（教科書・プリント・スライド）を丁寧に整理し、視覚的な分かりやすさを意識する。
- ・机間指導や声かけを通じて、生徒理解の状況を把握する。
- ・板書やスライド、ICT機器を適切に組み合わせた指導を実施する。
- ・学習者用端末を用いた調べ学習やレポート作成、振り返り活動を行う。
- ・成果物やまとめシートの作成を通して、学んだことの形を残す指導を試みる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ① 「できた」実感を高めるワークの導入
各題材でミニ課題を設定し、実習・体験→振り返り→共有の流れを明確化する
- ② 家庭学習との連携を意識した課題設計
家庭での実践課題を出し、学びの場を教室外に広げる
- ③ ICT活用の標準化と目的明確化
ICT活用場面を生徒に事前共有し、意味づけを行う
- ④ 提出物や課題管理の支援強化
提出物一覧やチェック表を振り返りシートに付ける等、視覚化できるようにし、生徒が自律的に管理できるようにする

<検証方法>

- ① 振り返りシートや成果物の記録、2学期授業アンケート
- ② 提出物と感想を記録し、授業で共有する。
- ③ 使用内容の記録、2学期授業アンケート
- ④ 振り返りシート

4. 検証結果(成果と課題) **【年度末に記入する】**

<成果>

- ・継続的な学習ができてきている。（「宿題」「作品」「提出物」を期限内にきちんと提出している。（授業アンケート3）は否定的な回答が8人から3人になった。）
- ・ICT活用の実感が出てきている。（「授業中、学習者用端末を活用して学習している」（授業アンケート6）の否定的な回答が5人から2人、「先生は、ICT機器を効果的に活用している。」（授業アンケート15）の否定的な回答が5人から2人になった。）

<課題>

- ・予習、復習の有無については改善が見られなかった。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 **【年度末に記入する】**

- ・継続的に学習ができる工夫を取り入れる。
- ・ICTを活用しながら、生徒がより意欲関心が出る工夫をしていく。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 **【年度末に記入する】**

- ・継続的に学習をし、意欲的に取り組む生徒。

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 英語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和7年度村学力調査では全国値よりも総合で-1.8ポイント、観点では知識・技能-4.6ポイント、思考・判断・表現では+1.1ポイントだった。そして、令和6年度村学力調査では総合で0.5ポイント低く、観点では知識・技能+1.2ポイント、思考・判断・表現では-3.3ポイントだった。前年度と比べると思考・判断・表現では向上傾向があるものの、総合及び知識・技能において課題がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

該当学年が小学6年生であった令和5年度の授業改善推進プランでは課題として以下のことが示された。

- ・児童によって学習意欲に差がある。意識の低い児童が2割程度いる。
- ・アルファベットを正しく書けない児童が3割程度いる。また、大文字小文字の使い分けや書き方についての理解は不十分である。
- ・スピーキングとリスニングを苦手とする児童が3割程度いる。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・前時までの復習を導入時に毎回行い、基礎基本の定着を図る。
- ・既習内容を活用したコミュニケーション活動を行う。
- ・短時間で未修の英文を読む練習を繰り返し、復習とともに英語のへの抵抗感を軽減する。
- ・既習学習の基本表現の反復練習の練習を行い、基礎の定着を行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①各授業で前時の復習を積極的に行い、基礎基本の定着を図るために統一した形式の練習プリントを使用する。
- ②ワーク付属のデジタルドリルや既習事項の振り返り教材を活用し、復習の反復練習を行う。

＜検証方法＞

- ①単元終了後に内容をどの程度理解しているかを確認する。
- ②反復練習を確認するために練習時と同じ問題での確認を行う。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

- ・基礎基本の定着を図るための統一した形式の練習プリントは新規導入文法の理解の助けになっている。
- ・表現活動では相手の発言に対応してコミュニケーションを継続しようとしている。

＜課題＞

- ・理解から練習、習得へと学習を深めることができていない。
- ・基礎的な単語などの暗記が苦手

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・基礎的な単語などが定着しない
⇒過度な負担にならない範囲で単語数を絞った確認テストなどを行うことを検討する。
- ・高いコミュニケーション意欲の維持
⇒前述の基礎的な単語定着に重点をおき過ぎずに、継続的なコミュニケーション活動を行うことで現在の高いコミュニケーション意欲を維持したい。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

基礎的な単語や表現をコミュニケーションの中で使おうとするだけでなく、正確に表現できる生徒